

視聴覚教育

NO 135 発行日 82. 9. 2. 発行 岡崎市AVL 編集 広報委員会

感動は明日への生きるエネルギー

視聴覚教育部長 山田 利一

本年度も酷暑の中で、技術者講習・ビデオ講習・パソコン講習・校内放送講習と、幅広い定着した夏季実技講習会が開かれた。関係者の周到な計画と準備、それに応えた熱心な受講者の様子を見るとき、その歴史の重さをひしひしと感ずる。岡崎市小中学校視聴覚教育協会が発足したのが昭和二十九年で、それ以来連続として続けられて来た実技講習会である。

また、それに裏付けされた優れた実践も、数々の受賞がその証である。岡崎の視聴覚教育の評価が極めて高いことは、受賞式に臨んでみてよくわかった。昨年度、美川中学校が学校部門で文部大臣賞を受賞した。その審査評に「永い歴史と実践の積み重ねが決め手になった」とあった。これは、単に一校の受賞ではなくて、視聴覚ライブラリーを中心に教職員

ががっかり組んだ研究体制で、一つ一つの実践を大切に積み上げて来た全市の受賞だと思つていい。

マイクロコンピューターの普及と情報システムの飛躍的な進歩、テレビも壁掛式になろうという時代である。それに対応する力量や技術を身につけていかなければならぬ。当然実技講習の要求度も高くなろう。しかし、それに振りまわされてはいけない。子供達の心を育てることを忘れてはならない

いと思う。

NHK監査室主幹の北林才知氏は、「テレビの中と素顔」というエッセーの中で「アラウン管の中からホンモノの人間が見える。テレビだからこそ見えるものも多い。そして、人間っていいなあ、とか、生きているってすばらしい、とかの想いがからだをかけ抜ける。そんな小さな『暮しの中の感動』を受けとめ、積み重ねていくことは、アバシー（無感動）社会とまで言われる現代を生きるたしかな手だてのひとつだと書いてよい」と述べている。感動は明日への生きるエネルギーとなる。さみだれのような感動を受けとめる感受性を養うことが我々の大切な役目ではないだろうか。



編集する喜び



八幡町 竹内 郁夫

聞く、見る、そして語る。IJのよろんな順序で私は、言葉やものの姿を心に刻みつけてきたのではないだろうか。この度のVTR講習会に参加させていただき、あらためて考えさせられた。

私たちは、何らかのかたちで、自分の人生や活動、時代や社会を記録しながら生きている。ビデオ時代に生きる私たちは、それらのことをビデオによって記録することができるようになった。実に鮮烈である。それだけではなくて、自分の意思によって編集する」とができるようになつた」とである。

私にとって、講習会参加の喜びと感激は、機器の操作や教えられ、喜ぶことができたという」とよりも、それを用いて、

記録したことを「編集する」方法と能力を与えられたことである。その技術は幼な子のようないいものである。しかし、成長の希望がある。共に汗を流した友が与えられたことも感謝であった。



自作TP作品を募集

市内小中学校に勤務する先生で、自作した新鮮なアイデア作品、机の片すみに眠る作品など、数多くの応募をお願いします。（参加賞あり）

★規定 ①一時間または、一単元用で教科領域は自由

②一人一作品で、TP枚数は制限なし

③未発表の創作で、作成方法は自由

★その他 作品は厚手封筒に入れ応募個票の一枚を表に貼付、TPの枚数を明記して下さい。またTP一枚ごとに校名・氏名を記入して応募個票十枚とともに同封して下さい。

★応募先

岡崎市視聴覚ライブラリー企25・3000

十月十七日（土）必着（太陽の城一階）

☆お知らせ

一学期の教材配達サービスはの月8日から開始します。